

## 月中・年中行事清規三本の紹介

—『南禪諸回向』・『建長寺年中諷經並前住記』・『瑞鹿山圓覺興聖禪寺月中行事・年中行事』—

尾崎 正善

### はじめに

本論においては、『南禪諸回向』一卷一冊（龍谷大学大宮図書館蔵）・『建長寺年中諷經並前住記』一卷一冊（以下、『建長寺年中諷經』と略す）（東大史料編纂所影写）・『瑞鹿山圓覺興聖禪寺月中行事・年中行事』一卷一冊（以下、『円覚寺月中・年中行事』と略す）（お茶の水図書館成簀堂文庫蔵）の三本の中世臨済系清規の月中行事・年中行事を紹介する。それらの比較を通して、共通の行事・年回供養、さらにその相違点を明らかにし、それぞれの特徴を示すことにより禪宗行事の展開を考察する一助としたい。

なぜこうした作業を行うのかといえば、まず第一に一四世紀から一五世紀にかけてのこの時代の史料の紹介が、未だ充分になされていないという問題がある。かつて筆者は、『慧日山東福禪寺行令規法』（内閣文庫蔵・文保二年〔一二三二〕頃<sup>1</sup>）、『大鑑清規』（南禪寺聴松院蔵・貞和五年〔一二四九〕<sup>2</sup>）、『叢林拾遺』（東漸和尚略清規）（京都大

学文学部図書館蔵・応永一七年「二四一〇」頃<sup>3)</sup>等の清規史料の翻刻を行ってきたが、未だこの時代の清規の特徴を明らかにできるほどの史料が公刊されているわけではない。現存する史料の少なさもあるが、書名のみで一般に公開されていない史料も多い。そのような史料の紹介を通して、この時代の清規・儀礼を明らかにすることにより、江戸時代の展開や現代の問題を考察する基礎としたい。その為、今後ともより多くの史料を比較検討する必要がある。

第二には、ほぼ同時代で形式的・内容的に類似した三史料だからである。かつて筆者は、『南禅諸回向』の冒頭部分と『建長寺年中諷経』の記述の形式及び内容に関しての類似性について、「清規研究の問題点——南禅寺関係の清規の紹介を兼ねて——」（『禅学研究』第八〇号、平成一三年（二〇〇一）二月）において指摘した。その類似点に関しては後に述べるが、この京都五山之上と鎌倉五山第一位という、共にその地域の中核をなした寺院の記録ではあるが、この二点の史料だけではやはり充分にその時代の特徴や相違点を明らかにすることはできないと考えていた。しかし、今回、円覚寺系の清規である『円覚寺月中・年中行事』の閲覧の御許可を賜うことができた。この清規は、標題が示すように「月中行事・年中行事」のみの記録であり、形式的には他の二本と同様であった。また内容の比較を行ったところ、『建長寺年中諷経』との共通点のみでなく、『南禅諸回向』との類似性も確認することができた。結果的に、同時代における共通性と各寺院の持つ独自性が、同じの形式の上に立って比較することが可能となったのである。

第三点は、檀那の忌日・誕生に関する記録が大変細かい点である。そのような記録が今まで無かった訳ではないが、時の権力者、特に足利將軍家や鎌倉公方との関係を顕著に表した好史料である。これは、寺院の対社会的な関係を考える上でも一助となろう。

今回は、以上のような趣旨を踏まえて、三清規の特徴を論じると共にその翻刻紹介を行いたいと思う。

### 一、三本の書誌について

それでは次に、三本の史料の書誌に関して簡単に記しておこう。

まず、『南禅諸回向』に関しては既に、前述の拙稿において詳しく論じているが、発表後に新出の史料も確認されているのでその紹介も含めて再説しておきたい。

本清規は、現在以下の二本の写本が知られている。

『南禅諸回向』（旧正因庵蔵） 一卷一冊・龍谷大学大宮図書館・267615-1

『興国南禅記』（旧慈聖院蔵） 一卷一冊・国立歴史民俗博物館

この二本は、同一系統の写本であるが今回翻刻するのは龍谷大学所蔵の『南禅諸回向』（旧正因庵蔵本）を底本とする。

本清規の法量は、タテ二六センチ、ヨコ一九・四センチ、全体は六八丁である。月中行事の箇所は、罫線を引いて一丁九行で、年中行事の箇所は、月毎に罫線で囲んで一丁一四行で、さらに回向文の箇所は、一丁一三から一四行で書かれている。

表紙に「南禅諸回向 正因庵」と直書されており、内題はない。

翻刻を行い比較対照する箇所は、本清規の「月中須知」の部分、五丁である。この箇所は、月中行事と年中行事の記述のみで、その続きは後世の増補である「回向集」となる。

次に、成立の時期に関してであるが、本清規は文明十一年（一四七九）成立の「月中須知」に永禄二年（一五五

九）頃と寛永年間（一六二四～一六四三）の二段階の増補が確認される。さらに、最終的には元禄四年（一六九二）の修理の記録がある。つまり、基本ともいべき文明十一年の「月分須知」に重層的に増補したもので、今回翻刻する月毎の行事の一覧表に、後世タイトルが示すような後半の行事・法要の回向集を大幅に付加したと考えられる。ただし、「月中行事」の箇所にも幾つかの加筆は確認できる。

因みに、この回向集の二月の「晩念誦」の項目に次のように記される。

○晩念誦 〈如来大師入滅至今日日本國永禄二己未年已得二千五百八載〉（一六丁裏）

さらに、一月七日の項には「永禄八己丑」（二二丁裏）の年号も確認できる。これにより、この回向集の部分は、永禄二年以降の増補であり、これはそれまでの行事を踏襲しつつ、各種行事の増補に対応して回向を整備したことが想定される。また、寛永年間の増補部分は後半の八丁で、分量的には僅かである。さらに、元禄四年（一六九二）の修復の記録が存することから、後代においても南禅寺において継続的に使用されていたと推測される。

「回向集」の構成は、正月から十二月までの行事に沿っての疏・回向と後半は臨時行事の回向を載せている。しかし、準備・進退等の法要の実際に当たったの諸注意は記さない。しかし、日常の回向集として多年にわたって使用されていたであろうことは、先に指摘したとおりである。

今回、文明十一年制定の「南禅寺月中須知」と月毎の行事の項目のみ翻刻を行ったが、以下の「回向集」に関しては、今後の課題としたい。また、その他、回向文の内容や特徴に関しては、先の拙稿を参照していただきたい。

さて、先の拙稿を著した時点では、歴史民俗博物館の史料の存在を知らなかった。二〇〇二年一〇月の企画展示である、「中世寺院の姿とくらし——密教・禅僧・湯屋」の目録五二頁に『興国南禅記』一冊と記されることにより知ることができた<sup>1)</sup>。展示会終了後、閲覧の許可が下り、龍谷大学蔵本と比較を行ったが、四箇所の記入箇所の前後、

さらに後半九丁が書写されていないことが確認できただけでその形式・内容等全く同一系統の写本であった。このことにより『南禅諸回向』は、南禅寺塔頭である正因庵・慈聖院等複数の寺院で伝写され使用されていたであろう事が推測される。

次に『建長寺年中諷経』であるが、これに関しても現在二本の写本が伝えられている。それは、以下に示す二本である。

『建長寺年中諷経並前住記』一巻一冊 東史3015-56 (影写)

『建長寺年中諷経並前住記抄』一巻一冊 東史2016-229 (謄写)

この内、今回は『建長寺年中諷経並前住記』の記事を紹介したい。その理由は、後述するが一言でいえば、二本の記述内容・分量の大きな差である。

さて、本清規の法量は、タテ三六・五センチ、ヨコ二四・九センチ、全体は五四丁である。一丁七行で記されている。

今回紹介するのは、その前半部分である月中行事と年中行事、三四丁である。その続きの後半部は、開山大覚禅師から二三六世月鑑和尚までの世代表と「諸堂并諸職者之打廻」である。

表紙に「建長寺年中諷経并前住記」と記されるが、これは複製本の標題であり原本が如何なるものかは不詳である。内題は、「巨福山建長興国禅寺年中諷経并前住記」であり、これが原本の標題とも考えられる。

続いて、一丁表に「巨福山建長興国禅寺年中諷経并前住記 紀綱寮」と記され、その裏にも「巨福山建長興国禅寺年中諷経并前住記 福山 紀綱寮」と記される。

さて、成立の時期であるが、五三丁の裏に「文明二年 庚□ 王春十三日 祥□誌之」と記され、五四丁の表

に「延宝六戊午年十一月吉辰修補之」と記されている。

さらに「諸堂并諸職者之打廻」には永和五年四月二日の年号がある。

これらより本清規は、文明二年（一四七〇）の月中・年中行事の記録に暫時世代を付加し、その世代の続きに永和五年（一三七九）の記録を付し、最終的には延宝六年（一六七八）に補修を行ったと考えられる。

また、『建長寺年中諷經并前住記抄』は、法量は、タテ二六・三センチ、ヨコ一八・八センチ、全体は四丁である。

冒頭に「建長寺年中諷經并前住記 福山 紀綱寮」と記され、さらに年中行事の末尾に「文明二年 庚寅 王

春十三日 祥□誌之」とあることから今回翻刻する史料と同一系統で有ることが確認できる。また、続いて「崇鑑大禪定門 百ヶ日小疏 元和三年（一六一七）」の記事もある。

ただし、両本の丁数を比較しても判るように、その分量は大きく異なる。本書は、年中行事の主要な檀那の忌日・誕生の月日を記録するのみで、寺院行事や禅師の諱日については記していない。唯一、八月十九日の項に、「大圓和尚忌 傳衣菴」と記されるのみである。そのため、本書の標題は『建長寺年中諷經並前住記抄』となったのであろう。

この『建長寺年中諷經』の特徴として、他の『南禅諸回向』『円覚寺月中・年中行事』と比較すると、行事の準備や次第等に関する記述が比較的多い点が上げられるが、行事の項目を列記するという形式において類似の清規であるといえよう。

最後に、『円覚寺月中・年中行事』であるが、これは現在お茶の水図書館成實堂文庫に所蔵される稀覯本である。この本は、後付の仮り表紙があり、そこには、「円覚寺年中行事」と書かれ、徳富蘇峰が新添補装した時期とし

て大正戊午四月と記される。

次の、元の表紙の外題には、「本寺年中行事」と記される。さらに内題等はなく、直接「瑞鹿山圓覺興聖禪寺月中行事」として、一ヶ月の行事が列記される。それが終わると続いて「年中行事」として月毎の行事が記される。

法量は、タテ二三、六センチ、ヨコ一六、四センチ、丁数は八丁である。一丁八行で記されている。

本清規の書誌に関しては、『お茶の水図書館成實堂文庫目録』（目録二七二頁）に記されているのでそちらを参照していただきたいが、詳しい成立の時期は不詳である。しかし、年回供養の内容から鑑みて、目録に記されるように室町中期の写本と見て間違いないであろう。

形式としては、先の二本と同様に月中行事・年中行事の順番に日にちと行事が列記される。ただし、先の二本が罫線を引いた中に整然と日にち毎に記されていたのに対して、本書は区切りに朱点を入れただけで、一行の内に続けて事項を記している。

## 二、相互の関係について

まず、成立年代であるが、これは先にも述べたように『南禅諸回向』は文明十一年、『建長寺年中諷経』は文明二年成立、『圓覺寺月中・年中』に関しては正確な成立時期は不詳であるが、記述内容から鑑みては他の二本と同時期であろうと推測される。つまり、この三本は、ほぼ同時代に成立した清規である。

形式に関しては、『南禅諸回向』と『建長寺年中諷経』は、罫線で月日を囲んだ形で記す点などはほぼ同様であるといつてよい。どちらかがその影響を受けたとは、簡単にいえないが共通した書式が存在していたのであろうか。一方、『圓覺寺月中・年中』は先に示したように罫線など引かずに、事項を羅列している。しかし、月中行事・年

中行事という順番で、行事の日を追って並べている点は共通している。

ちなみに、このように月中・年中という行事を単独の一本としてまとめる形式は、これまで『瑩山清規』以外、活字化されて紹介された例はなかった。無論、月毎の行事を清規の一部に取り込んでいる例は、『校定清規』巻二「月分須知」(Z112.24a)、『備用清規』巻十「月分標題」(Z112.71d)、『勅修清規』巻七「月分須知」(T48.154c)等に確認できるが、これまで『瑩山清規』以前に「日中・月中・年中」という分け方で行事を記した清規は無かったし、後世の臨済系の清規にもこの形式のものは紹介されていなかった。

しかし、『瑩山清規』と同時代の『慧日山東福禪寺行令規法』が、「年中行事」の形式であったばかりでなく、本論で紹介する三本も同様の形式であった点は、この時代に共通の書式の清規が臨済・曹洞を問わず作られていたことを示すことになる。

次に法要の類似性に関してであるが、月中行事でいえば、一日・一五日の祝聖・寢堂茶、二日・一六日の土地堂、三日・一七日の祖師堂、四日・一八日の火徳諷經、五日・一九日の韋駄天諷經、六日・一九日の普庵諷經等々、定型で行われる法要が確認できる。これらはこの時代共通する行事として定着していた。

また、年中行事でいえば、正月五日間の修正会、二月八日の大帝誕生・一五日の涅槃会、四月八日の降誕会・四日の楞嚴会啓建・一五日の乗拂、七月一四日の楞嚴会満散・一五日の山門施食、一〇月五日の達磨忌等、現在の禪宗儀礼とほぼ同じものが上がってくる。

因みに二月八日の大帝誕生は『慧日山東福禪寺行令規法』・『大鑑清規』に確認できるが、後世の清規には見ることができない儀礼である。

次に僧侶の年回供養の共通性を確認してみると、一月一七日大鑑禪師(清拙正澄)、八月一二日伯英和尚(徳僞)、



一〇月二五日一山国師（一山一寧）、十二月一日廣智国師（士曇）等、三寺院に深く関わる主要な禅者の年回供養を定めている。

その他の諱日に関しては、やはりそれぞれの寺院の事情・特性がもつとも端的に現れているといえよう。次に檀那の忌日供養の共通するのは以下の五名である。

一月一八日勝定院殿（義持・一四二八没）、四月晦日等持院殿・長壽寺殿（尊氏・一三五八没）、五月六日鹿苑院殿（義満・一四〇八没）、一〇月二六日最勝園寺殿（北条貞時・一三一一没）、十二月七日宝篋院殿（義詮・一三六七没）

北条貞時を初めとして足利將軍家は尊氏から義持までが三本に共通することが判る。このことは、先に述べた清規の成立の時期とも合致している。

因みに足利將軍家との関係については、『建長寺年中諷經』には普廣院殿善山慧公忌（義教・一四四一没）、『建長寺年中諷經』と『円覚寺月中・年中行事』には慶雲院殿陽山春公忌（義勝・一四四三没）、『南禅諸回向』には慈照院殿（義政・一四九〇没）・慧林院殿（義植・一五二三没）・法住院殿（義澄・一五一一没）・萬松院（義晴・一五五〇没）・光源院殿（義輝・一五六五没）、『南禅諸回向』と『円覚寺月中・年中行事』には靈陽院殿（義昭・一五九七没）の加筆が確認され、三清規の成立の時代を反映していると考えられるが、室町幕府以後の年回供養の記事はない。

以上、主に三本の清規に共通するものを取り上げたが、『建長寺年中諷經』と『円覚寺月中・年中行事』の二本には、北条家の法光寺殿（時宗・一二八四没）・日輪寺殿（高時・一三三三没）の忌日、鎌倉公方の瑞泉寺殿（基氏・一三六七没）・永安寺殿（氏満・一三九八没）・勝光院殿（満兼・一四〇九没）・長春院殿（持氏・一四三九

没)等、共通の忌日が見られる。

一方、五月一九日の佛燈國師忌は『南禪諸回向』と『建長寺年中諷經』が共通、普廣院殿忌・靈陽院殿忌は『南禪諸回向』と『円覚寺月中・年中行事』が共通というように、三本の関係は、それぞれの忌日を取り上げたただけでも複雑であることがわかる。

また、『南禪諸回向』には、龜山天皇(一二七四没)・後嵯峨天皇(一二七二没)・後宇多天皇(一三三四没)・後醍醐天皇(一三三九没)という南禪寺縁の四代の天皇の忌日を記すが、建長寺・円覚寺ともに皇室に関する特定の忌日は定めていない。

これらの忌日の記録のうち禅僧の場合は法系や世代という寺院内部の問題であろうが、一方檀那との関係はその寺院の置かれていた立場、対社会的な関係を端的に示しており寺院史の上からも興味深い史料といえよう。

さらに『建長寺年中諷經』『月中行事』には、

一三日、大檀那征夷大將軍從一位源朝臣義教

二二日、大檀那左武衛大將軍源朝臣持氏

の二名、「年中行事」には

二月一二日、大檀那征夷大將軍源朝臣義持

三月二〇日、大檀那關東道都元帥源朝臣政氏

三月二六日、大檀那關東道都元帥源朝臣義氏

の三名の誕生儀礼がある。

また、『円覚寺月中・年中行事』『月中行事』には、二日・八日・十一日に大旦那誕生の項目がある。こうした、

誕生の儀礼の詳細については今後の課題としたい。

なお、紹介の上では特に類似の箇所を指示するようなことは行わなかったが、三段組で表示した際に、各月・各日に対応するように並べたのでそれぞれを比較することは容易であろう。その中から、改めて当時の禅宗儀礼の特徴・各寺院の特徴等を明らかにすることができれば何よりである。

\*史料の翻刻紹介を御快諾下さった、龍谷大学大宮図書館・東京大学史料編纂所・財団法人石川文化事業団お茶の水図書館に対し一言記して謝意に代えたい。

## 注 記

(1) 「翻刻・『慧日山東福禪寺行令規法』」

『鶴見大学仏教文化研究所紀要』第四号（平成二十一年四月）

(2) 「翻刻・聴松院蔵『大鑑清規』」

『鶴見大学仏教文化研究所紀要』第五号（平成二十二年四月）

(3) 「翻刻・京都大学文学部図書館蔵『叢林拾遺』（東漸和尚略清規）」

『鶴見大学文学部研究紀要』第三八号第四集（平成二十三年三月）

(4) 「中世寺院の姿とくらし―密教・禅僧・湯屋」の展示会の時、筆者が見学に行ったときには現物が展示されていなかった。また目録の『興国南禅記』関する書誌には、成立を文禄四年（一五九五）とする点、「南禅寺清規」（東大史料編纂所蔵）と混同している点、他の写本が伝来していない点など何点かの誤りがある。

## 凡 例

一、『南禅諸回向』一卷一冊（龍谷大学大宮図書館蔵）・『建長寺年中諷經並前住記』一卷一冊（東大史料編纂所影写）・『瑞鹿山圓覺興聖禪寺月中行事・年中行事』一卷一冊（お茶の水図書館成實堂文庫蔵）の三本の翻刻である。

一、翻刻にあたっては、三本の比較を優先したので、頁分け・改行箇所・空白等に関しては原本に準じていない。各月・各日が対応するよう、改行空白は適宜行った。

なお、『建長寺年中諷經』「年中行事」は、月の全ての日にちをあげて、行事の無い日は空白としているが、翻刻では煩瑣となるので空白の日は全て割愛した。

一、踊り字（々）に関しては、適宜字句を挿入した。

一、字体の相違に関しても、俗字・異体字・略字等適宜字体をあらためた。

覺—覺—竟—靈—灵—帰—歸—皈—仏—佛等。

一、不明の文字は□で、字数が判らない場合は「」で示した。

一、丁数および表裏等に関しては特に記していない。

一、句読点は、便宜的に筆者が付した。

一、割り注に関してはへで示した。なお、『圓覺寺月中・年中』の（ ）は朱書きを、「」は別筆であることを示す。

【南禅寺】

南禅諸回向 正因庵（表紙）

五山之上瑞龍山太平興國南禅々寺月中須知

一日、祝聖・寢堂茶・天授・帰雲諷經・上堂 放參

二日、土地・帰雲諷經・同半齋・堂前

〈捲見院殿、年忌六月〉

同前

三日、祖師・半齋・曇華堂 僧正 堂前

〈月泉修公都聞、大悲咒〉

同前

四日、火徳・日中〈萬松院殿 五月〉 同前

五日、韋駄天・半齋・曇華堂〈慈照院殿

引上七日、年忌正月〉

同前

六日、普庵・半齋・曇華堂〈鹿苑院殿、年

【円覚寺】

本寺年中行事（表紙）

瑞鹿山圓覺興聖禅寺月中行事

一日、祝聖・寢堂礼・正統院・請寮主・上堂巡堂・喫茶・上塔・次靈祠諷經

二日、土地堂・永福院殿觀禅定居〈上祠

堂正月須於旧年調經〉

正統院宿忌・大旦那誕生

三日、祖師堂・正統院半齋・仏日庵法光

寺殿景公大禅定門宿忌 四月

四日、火徳・直指堂 永安寺殿壁山大

禅門 十一月 仏日庵

五日、韋駄天・上祠堂 法苑寺殿雪溪禅

定門〈五月〉

六日、普庵・土地堂火徳啓建 尅期七日

【建長寺】

建長寺年中諷經并前住記（表紙）

巨福山建長興國禅寺年中諷經并前住忌

巨福山建長興國禅寺月中行事于后

初一、祝聖〈就于輪藏、大悲咒一遍、消災咒三遍〉

西堂両班大耆舊就于寢堂茶禮

西来菴諷經（ 常楽（ ）

斎罷上塔諷經〈次八幡宮諷經并銀錢等。

大悲咒一遍、消災咒三遍〉

晚間梵語心經〈大悲咒一遍、消災咒三遍〉

初二、土地堂諷經〈楞嚴咒、消災咒三遍、辨

點心飯銀錢等〉

覚海禅師忌

初三、祖師堂諷經〈楞嚴咒

初四、火徳諷經〈就于梅檀林楞嚴咒、消災咒三

遍 永安寺殿全公忌

法光寺殿〈泉公忌

初五、韋駄天諷經〈楞嚴咒消災咒二遍、銀錢

晚間就于土地堂啓建火徳〈楞嚴咒消災

咒三遍、尅期七日〉

初六、普庵諷經〈就于梅檀林楞嚴咒、消災咒三

忌五月

同前

七日、早晨・半齋・曇華堂〈宝篋院殿・年

忌十二月

同前

八日、早晨・半齋・曇華堂〈慧林院殿引

上九日〉晚念誦

同前

九日、早晨・半齋・南禪院〈大宮仙院〉同前

十日、早晨・日中

同前

十一日、早晨・日中

同前

十二日、早晨・開山諷經・同半齋堂前

〈菊坡巖公首座・琴雨舜公藏主四月〉

同前

十三日、早晨・同半齋堂前〈條鉄秀公大禪

定門、天正十壬午歲六月 春芳光□座元

年忌八月、明□洵公座元 年忌四月〉同前

十四日、早晨・半齋・曇華堂法住院殿・大悲

咒、堂前芳林阿傳都聞 引上十六日〉同前

十五日、祝聖・寢堂茶〈天授・帰雲〉諷

經・上堂・半齋・南禪院 同前

十六日、土地・半齋・南禪院〈後醍醐天皇

年忌八月〉

同前

直指堂鹿苑院殿天山大禪定門〈五月〉

七日、宝篋院殿瑞山大將軍 直指堂〈十

二月

八日、念誦〈成氏〉大檀那誕生

九日、慈氏殿 潮音院殿覺山大師十月

十日、直指堂 長春院殿△二月

十一日、請寮主

十二日、土地堂火德滿散・大旦那誕〈政

知〉・法越禪門・鏡明禪尼〈十月下祠

堂大悲咒

十三日、上祠堂 香雲院殿清菴大師△二

月〉靈源院殿勝峰禪定門〈七月〉

十四日、

十五日、祝聖・寢堂禮・正統院 上堂巡

堂喫茶・上塔・次靈祠諷經

十六日、土地堂

遍〉鹿苑院殿天山忌

初七、宝篋院殿瑞山權公忌

初八、晚間皇帝念誦 藥師諷經〈灌光院

殿高山貴公〉

初九、潮音院殿覺山大師〈志道〉

初十、長春院殿陽山繼公忌

十一、進退寮主 晚間滿散火德〈就土地堂化

疏銀錢〉

十二、大檀那〈征夷大將軍〉源朝臣義持

〈丙寅〉誕生

〈征夷大將軍正二位權大納言兼右近衛大將源

賴朝公法名嘯源大禪定門〉

十三、大檀那征夷大將軍從一位源朝臣義

教〈甲戌誕生〉

十四、

十五、祝聖〈同月旦〉寢堂茶禮〈同月旦〉

斎罷上塔〈同月旦〉晚間梵語心經

〈同月旦〉

十六、土地堂諷經〈同初二〉

<p>十七日、祖師・半齋・南禪院〈御嵯峨院 年忌二月〉 晚五鳳樓</p>	<p>十八日、火徳・半齋・曇華堂〈勝定院殿〉 晚念誦 放参</p>	<p>十九日、韋駄天・半齋・曇華堂〈光源院殿 五月〉 晚薔薇林</p>	<p>二十日、普庵・日中 放参</p>	<p>廿一日、早晨・日中 同前</p>	<p>廿二日、早晨・半齋堂前〈建紹都寺〉 同前</p>	<p>廿三日、早晨・半齋堂前〈幸阿禪門〉 同前</p>	<p>廿四日、早晨・半齋・曇華堂〈普廣院殿・六月〉 晚綾戸廟</p>
<p>十七日、祖師堂・上祠堂・普賢院殿明山大師〈十一月〉</p>	<p>十八日、火恵・直指堂・勝定院殿顯山大 禪定門〈正月〉 妙心大師〈下祠堂〉・念誦・圓通閣・就于函丈懺法</p>	<p>十九日、韋駄天・上祠堂・定光院殿悟庵 禪定門〈五月〉</p>	<p>廿日、普庵・上祠堂・安樂寺殿月海 禪定門〈四月〉</p>	<p>廿一日、請寮主・直指堂・最明寺殿崇公 大禪定門〈十一月〉</p>	<p>廿二日、太子・直指堂・勝光院殿泰岳大 禪定門〈七月〉 日輪寺殿鑒公大禪定門・同光増・清公・彭公・祐公〈五月〉</p>	<p>廿三日、下祠堂・了義禪門</p>	<p>廿四日、上祠堂・長慶寺殿太山大禪定門 〈九月〉・下祠堂・仍海禪門・直指堂</p>
<p>十七、祖師堂諷經〈同初三〉 本覺禪師忌 素登提點忌〈就于梅檀林、靈供諷經〉</p>	<p>十八、火徳諷經〈同初四廿棠院殿吉山長公忌、勝定院殿顯山詮公忌〉千手堂諷經 晚間皇帝念誦、参後就于圓通閣修懺</p>	<p>十九、韋駄天諷經〈同初五〉慶雲院殿陽山春公忌 晚間就于梅檀林諷經〈楞嚴咒〉</p>	<p>二十、普庵諷經〈同初六〉 應供廣濟国師忌</p>	<p>廿一、進退寮主〈大檀那左武衛大將軍源朝臣持氏戊寅誕生〉</p>	<p>廿二、太子諷經〈楞嚴咒、消災咒三遍〉 最明寺殿崇公忌</p>	<p>日輪寺殿鑒公忌〈預於廿一日諷經〉 勝光院殿泰岳安公忌〈預於廿一日諷經〉 普廣院殿善山慧公忌</p>	<p>廿三、應真閣諷經〈楞嚴咒〉 晚間就于西來菴諷經 廿四、開山祖師忌 正宗廣智禪師忌〈預於廿三日諷經〉</p>

廿五日、早晨・半齋・南禪院〈御宇多院〉

放參

廿六日、早晨・半齋・曇華堂〈最勝園寺院年

忌十月〉

同前

廿七日、早晨・日中〈私云、小月引上等持院

殿〉

同前

廿八日、早晨・半齋堂前〈德海政公都聞、

靈陽院殿八月〉

晚念誦 同前

廿九日、早晨・半齋堂前〈善住禪門、□

三宮島山大禪定門〉

同前

晦日、早晨・半齋・曇華堂〈等持院殿四月〉

同前

〔正月〕

自初一日、逐日齋前齋罷、看經 五日滿

散

普廣院殿〈六月〉

廿五日、直指堂 大休寺殿古山大禪定門

〔二月〕

廿六日、直指堂 瑞泉寺殿玉岩大禪定門

〔四月〕

無畏堂 最勝園寺殿演公大禪定門

〔十月〕

廿七日、下祠堂〈大悲咒〉・淨宗禪門及龜

山順傷逆亡等靈

廿八日、羅漢諷經・念誦巡堂 三人問訊

廿九日、

晦日、直指堂 長壽寺殿仁山大將軍〈四

月〉設利塔

乾亨院殿久山昌公禪定門

年中行事

〔正月〕

自初一日、至五日修正・就于大光明寶殿

看經・齋罷就大殿修法花妙懺・就寶

雲閣圓通妙懺・就仏日庵法花妙懺・

廿五、文殊殿諷經〈楞嚴咒〉

廿六、最勝園寺殿演公忌〈預於廿五日諷經〉

大休寺殿古山源公忌

瑞泉寺殿玉岩听公忌

廿七、永仙院殿系山統公忌

〔華嚴塔諷經并八幡 華嚴塔元亨三年十月〕

廿一日、供養圓成 尼建立貞時公室也

廿八、晚間無常念誦〈巡堂 點湯〉

廿九、乾亨院殿久山昌公大禪定門神儀

晦日、長壽寺殿仁山義公忌

晚間毘盧寶閣諷經〈楞嚴咒〉

巨福山建長興國禪寺年中行事于后

〔正月〕

初一、粥罷祝聖諷經 就于西來菴諷經

修正三時上殿〈早晨就于方丈、觀音懺法〉

齋罷就于大仏殿法花懺法



六日、学苑和尚〔梅津、大慈〕

十二日、椿庭和尚〔語心院〕

十七日、百丈忌、儀同達磨忌半齋。大鑑  
禪師 大悲咒 聴松院  
十八日、善月祈祷 勝定院殿半齋

至五日就大殿修正満散

二日、学隠和尚

三日、永福寺殿觀禪定尼

五日、無外和尚〔明光院〕

十二日、此山和尚〔定正院〕

十七、大鑑禪師〔禪居〕

十八日、勝定院殿

十九日、仲英和尚〔福嚴〕

廿四日、正宗廣智古光禪師〔廣德〕同日  
了義禪門・同仍海禪門

初五、早晨掛常樂寺輪番清衆差定  
満散修正

初七、知覺禪師忌〔延慶二年〕通玄菴

初八、仏種惠濟禪師忌 梅洲菴

初七、早晨出常樂寺修正清衆差定〔傑山

禪秀禪門上樞中務入道〕

十二、大業堯公禪門忌〔土肥宮内少輔真堯、

就于拈花堂下間脇諷經〕

十三、嘯源大禪定門〔征夷大將軍正二位

行權大納言兼右近衛大將源朝公法名〕

正治元年己未薨 至延宝六年戊午

十七、大鑑禪師忌〔粥罷諷經了即鳴鐘就于拈花

堂、出班上香大悲咒一遍常住辨供〕禪居庵

十八、勝定院殿頭山詮公忌

廿二、友峰和尚忌

廿四、正宗廣智禪師忌 廣德菴

廿五、慶堂和尚忌 壽昌院

廿七日、普照大光國師〔正眼院〕  
〔二月〕

八日、大帝誕生 張看經榜 出班借香  
即時滿散

十五日、仏涅槃〔預製疏〕半齋 出班各香

十七日、後嵯峨院

十八日、懺法、同滿散

廿二日、鏡智法明禪師

廿六日、久庵和尚〔實際〕  
擇吉日四季祈禱・一期三日

〔二月〕

初二日、大川和尚〔臥竜庵〕

六日、大本禪師〔瑞雲菴〕

八日、大帝誕生、預出榜・就靈祠排座  
看經便滿散

十日、長春院殿陽山繼公大禪定門

十三日、香雲院殿

十五日、仏涅槃・預出列拜圖・上堂罷詣

大仏殿宣疏并諷經・齋罷就于仏日庵

諷經・便舍利諷經

十八日、仏壽禪師・同日等覺禪師

廿三日、東峰和尚・同日東岳和尚〔富陽庵〕

廿六、仏印大光禪師忌 實際菴

〔二月〕

初六、大本禪師忌

初七、晚間揚大帝誕生看經榜

初八、大帝誕生〔就于土地堂排座位念唄看經不用同音、普門品即時滿散出班上香化疏銀錢經馬〕

馬

初九、老仙和尚忌 正法院

初十、長春院殿陽山繼公忌

十二、大檀那征夷大將軍源朝臣義持〔丙寅〕  
誕生

十五、仏涅槃〔鳴大鐘就于大仏殿出班上香、列

拜宣疏了□仏諷經〕

十八、仏壽禪師忌 雲外菴

廿二、太子忌

廿三、東嶽和尚忌 岱雲庵

廿八日、勅謚仏慧圓應禪師蘭坡和尚

〔三月〕

三日、僧正 半齋

十二日、玉畹和尚

十二日、宗猷達悟禪師〈弘源寺、正因庵〉

十八日、彦材和尚〈正的院〉

廿日、無惑和尚〈紫玉庵〉

廿一日、性海和尚

廿五日、大休寺殿

彼岸日・初中後就于仏日庵旦那諷經

廿八日、収甫全和尚〈繼芳〉

〔三月〕

初二日、仏慧禪師〈靈山〉

三日、梅林和尚〈宝亀庵〉

十二日、仏恵禪師〈傑翁和尚〈帰源庵〉

廿六、大休寺殿忌

廿七、實翁和尚忌 大智菴

彼岸〈撥舊僧衆六員就于常樂寺、看閱五部

大乘經一日〉

〔三月〕

初二、仏恵禪師忌 正受菴

初八、大檀那関東道都元帥源朝臣 誕生

初十、宗遠和尚忌 建初菴

十七、徳西都寺

二十、大檀那関東道都元帥源朝臣〈政氏、

丙戌〉誕生

廿四、真覺禪師忌

廿六、大檀那関東道都元帥源朝臣〈義氏、

癸卯〉誕生

廿八日、德海政公都聞

〔四月〕

初一日、浴仏偈貼諸堂柱

二日、帰雲忌〈儀同百□□不具疏〉次赴塔下

諷經

四日、義堂和尚〈慈氏院〉

八日、仏誕生〈預製疏〉半齋 出班各香

午後出排被位圖

十三日、午後出楞嚴會圖 衆寮諷經

十四日、啓建楞嚴會 午後列戒臘牌於各  
所 土地堂念誦 大坐湯 開山并歸  
雲諷經 小参

〔四月〕

一日、出草單

四日、法光寺殿・當日獻粥諷經・說戒罷

陞座、拈香隨時

八日、仏誕生 行礼同涅槃會排□位

同日、大達禪師（正傳庵）

十一日、仏果禪師（宝泉）同日華宗和尚

（聯芳庵）

十三日、衆寮諷經・使出楞嚴會圖

十四日、楞嚴會啓建・晚間出戒臘牌・土地堂念誦・大坐湯罷・開山諷經并小  
参

晦日、星岩和尚忌

〔四月〕

初一、粥罷出草單式、齋罷請楞嚴頭

初四、法光寺殿忌

照牌〈聞鐘聲各具威儀詣于大仏殿〉

初八、仏誕生〈掛浴仏偈就于大仏殿儀同會、諷

經了點湯〉

大達禪師忌

初九、齋罷排被位

齋罷排被鉢位、伏乞 衆悉 堂司

某白

晚間出念誦巡堂之圖

十一、仏果禪師忌〈應永八年〉寶泉菴

十三、竹岩賢公禪門忌〈小山義政永賢、就于

拈華堂諷經〉

晚間就于衆寮〈點湯罷諷經、出楞嚴會圖〉

十四、就于仏殿〈鳴大鐘及諸寮板啓建楞嚴會、  
出班上香無礼拜、先宣疏了舉仏母不用銀錢并  
化疏維那回向如清規〉

十五日、秉拂

十六日、芳林傳公都聞

廿日、惟肖和尚〈双桂院〉

晦日、等持院殿

〔五月〕

端午上堂

二日、普圓國師〈東福、本成寺〉

六日、慈濟禪師

六日、鹿苑院殿

十日、大椿和尚〈雲臥菴〉

十五日、上堂人事齋罷・請秉拂・便就  
雲堂茶礼并秉拂

十八日、容山和尚〈天池庵〉

廿日、安樂寺殿〈月海〉

廿二日、玉岡和尚

廿六日、瑞泉寺殿

晦日、長壽寺殿 擇吉日四季祈禱・一期  
三日

〔五月〕

五日、法苑寺殿

六日、妙應光国恵海慈濟禪師〈東雲庵〉

六日、鹿苑院殿〈天山〉

十日、仏地禪師〈長寿院〉

晚間〈出念誦巡堂圖。土地堂念誦大座湯、  
次赴西來菴諷經、昏鐘鳴小參〉

十五、早晨〈祝聖諷經次赴西來菴、上堂巡堂、  
喫茶點心〉

齋退〈請秉拂次、茶禮巡堂〉

晚間秉拂。

廿一、東傳和尚忌 廣嚴菴

廿六日、瑞泉寺殿忌

晦日、長壽寺殿忌

〔五月〕

初三、龍岩呈和尚忌

初四、節翁和尚忌

初六、鹿苑院殿天山忌

十九日、仏燈國師〈牧護庵〉大年和尚〈禪

林院〉光源院殿

十九日、桃隱和尚〈慈觀院〉

十八日、善月祈祷

廿七日、無雲和尚

廿九日、東陵和尚〈西雲庵〉

〔六月〕

十六日、大智海禪師

十七日、高山和尚〈竜門庵〉

十九日、定光寺殿〈悟庵〉

廿一日、雲山和尚

廿二日、日輪寺殿鑑公清公邦公祐公大禪門

〔六月〕

十一日、蔵海和尚〈福山吉祥〉

十七、仁菴和尚忌 梅岑菴

十九、仏燈國師忌 龍峯菴

廿二、日輪寺殿忌

廿三、天初和尚忌、

廿七、永仙院殿忌

〔六月〕

初一、預請常樂寺仏事

初二、普覺禪師忌

初六、大建和尚忌

初八、潜光院殿高山貴公忌

初十、龍江和尚忌

十一、差排常樂寺仏事僧衆〈牌掛至十五日〉

蔵海和尚忌、吉祥菴

十四、齋罷〈堂司預寫兩班泊大小辨事名字批子

報常樂寺齋并、請上臘四十一員頓寫蓮經一

部同音經一部常住辨之〉

十八日、懺法、同滿散	十九日、太清和尚〔雲門菴〕	廿四日、普廣院殿	廿五日、後宇多院	廿九日、善住禪門	〔七月〕	初一日、施餓鬼文貼諸堂柱 孟蘭盆看經	榜出堂外	四日、仏徳禪師〔正的院〕	四日、在菴和尚	九日、大幢和尚	十三日、午後衆寮諷經	十四日、滿散楞嚴會 土地堂念誦 大坐	湯 開山并歸雲諷經 小参
廿四日、普廣院殿〔普山〕・半夏	〔七月〕	一日、出孟蘭盆看經榜榜	六日、華岳和尚	十二日、□□和尚〔等慈庵〕	十三日、仏真禪師〔如意庵〕・同衆寮諷經・同靈源院殿勝峰禪定門〔大旦那政知正誕生〕	十四日、楞嚴會滿散・至晚土地堂念誦并大座湯罷・正統院并小参							
十五、粥罷〔就于輪藏祝聖拈香不用上堂、兩班泊大小辨事人赴常樂寺諷經〕	廿八、癡鈍和尚忌	〔七月〕	初一、出孟蘭盆縁結看經榜 泊貼施食文	初三、天徳院殿乾運淳貞大禪定尼	初四、晋用和尚忌	初九、道妙禪門 妙喜禪尼〔就于拈華堂諷經、濱名殿〕	十三、晚間就于衆寮諷經〔同結夏〕	十四、早晨鳴大鐘滿散楞嚴會	照牌〔聞鐘聲各具威儀□大仏殿滿散楞嚴勝				

十五日、當晚就于山門頭諷經 施食

十六日、竺仙和尚〈楞伽院〉

廿二日、建紹都寺

廿四日、虎関和尚〈濟北院〉

十五日、上堂人事・晚間就山門首施食  
罷・就祠堂大悲咒・并仏日庵

〔十八日、甘棠院殿道長大禪門〕

廿一日、慶雲院殿〈采山〉

廿二日、勝光院殿忌〈泰岳〉

廿三日、仏智圓應禪師

擇吉日四季祈禱・一期三日

會

晚間湯罷赴西來菴諷經

十五、晚間就于山門首施食〈泊滿散結緣經  
用銀錢并化疏、或無施食十四日晚間滿散結緣

□

十六、竺仙和尚忌

十七、素登提點忌〈齋大汁一菜二種并供具每  
年自常住可辨之評定落居〉

十八、前征夷大將軍頼家卿忌

〈甘棠院殿吉山長公大禪定門忌〉

十九、大圓和尚忌 傳衣菴

廿二、勝光院殿忌

廿三、仏智圓應禪師忌 照牌〈今晚各具威  
儀就于、拈華堂并西來菴〉

晚間〈出列拜之因莊嚴法堂舖設法座鳴鐘赴

祖堂迎開山初祖於拈華堂隔宿諷經次赴西來菴  
諷經〉

廿四、開山祖師忌〈鳴鐘赴法堂獻疏諷經、次  
赴西來菴諷經〉

臨齋〈就于拈華堂出班上香大眾列拜或拈華、  
大悲咒一遍次送開山初祖於祖堂了赴西來菴〉  
照牌〈臨齋各具威儀就于拈華堂并西來菴〉



廿九日、堅中和尚〈護聖院〉  
晦日、張御忌 榜於南禪院  
〔八月〕

七日、聖徒和尚〈禪栖〉  
八日、廷用和尚〈徳雲〉  
九日、放牛和尚

十二日、伯英和尚〈大寧院〉  
十三日、智覺普明國師〈龍華院〉  
十六日、後醍醐天皇御忌〈儀同龜山忌〉  
十八日、雲岳和尚  
二十日、蒙山和尚〈上乘庵〉

廿八日、靈陽院殿

晦日、張御忌〈榜於南禪院〉

〔八月〕  
彼岸初中後日・就仏日庵日那諷經  
一日、真覺禪師〈瑞光菴〉

十二日、伯英和尚〈福山華藏〉

廿日、東林和尚〈雲光庵〉

〔八月〕  
初一、宗献大光禪師忌  
初二、覺海禪師忌 妙高菴

十一、竺西和尚忌  
十二、伯英和尚〈応永九年壬午〉華藏院  
十三、智覺普明國師忌

二十、東林和尚忌、貞芳和尚忌  
廿一、悟山了公禪門忌〈二階堂下野太守  
行了、就于拈華堂諷經并風呂〉

廿二、可翁和尚忌 正本菴  
廿四、春江和尚忌 以清和尚忌  
廿五、石室和尚忌 應安七〈甲寅〉金龍庵  
廿八、東里和尚忌 彼岸儀同二月  
彼岸〈儀同二月〉

〔九月〕

重陽上堂。同日、大宮仙院。同日、龍湫和尚〈慈聖院、表米在之〉

十五日、龜山覺皇御忌。自初一日、就南

禪院。逐日、六番看閱毘盧大藏 隔宿諷經、半齋拈香

十六日、月心和尚〈本地院〉

十六日、平田和尚〈雲興〉

十八日、善月祈禱

廿二日、景南和尚〈東禪院〉

廿七日、仏日焰惠禪師〈少林院〉

〔九月〕

一日、糊僧堂窓排前後門暖簾

三日、開山祖師忌・預於二日晚間・就直指堂諷經・出列拜圖并正統院・當日献粥諷經・臨濟直指堂出班燒香罷・大悲咒・就正統院諷經

十三日、廣圓明鑑禪師〈大拙和尚〔□松庵〕

廿四日、仏滿禪師（統灯菴）同長慶寺殿

△太□

廿六日、大圓禪師

〔九月〕

初三、圓滿常照國師忌

初四、九成和尚忌

初七、曇芳和尚忌 瑞林菴

十三、大拙和尚忌

十六、方崖和尚忌

廿四、仏滿禪師忌

廿五、国一禪師忌 向上菴

廿六、大圓禪師忌 靈光菴

廿七、仏日焰惠禪師忌〈建武三年〉雲澤菴

晦日、夢窓國師（上生院、有表米）

〔十月〕

一日、開爐

五日、達磨忌（預製疏） 隔宿諷經、出列拜之圖、半齋出班各香

七日、在中和尚（瑞雲庵）

十日、履中和尚（清泰院）

十四日、大業和尚（金地）

十七日、無隱和尚（幻住庵）

晦日、夢窓國師同日（黄梅院）

乾亨院殿（久山品公）

〔十月〕

三日、大傳和尚（頂門菴）

四日、東明和尚（白雲菴）

五日、達磨忌・四日晚間・就直指堂宿忌諷經・出列拜圖・當日獻粥諷經・臨齋出班燒香・宣疏諷經

七日、南山和尚（傳宗庵）

九日、潮音院殿（宿忌獻粥、說戒）

十二日、法越禪門・鏡明禪門

十四日、天澤和尚（大義庵）

晦日、乾亨院殿久山品公大禪定門忌（明應六年丁巳九月晦）

〔十月〕

初四、東明和尚忌

晚間達磨忌（出列拜之図、儀式同、開山忌）

照牌（今晚各具威儀就于拈華堂）

初五、達磨忌（粥罷鳴鐘獻粥諷經）

臨齋（鳴鐘大衆具威儀赴法堂 住持點供、出班上香大衆列拜次拈香諷經）

照牌（臨齋各具威儀就于拈華堂）

初七、南山和尚忌

初九、仏觀禪師忌 大統菴

潮音院殿（覺山志道大師） 忌（東慶寺開山也）可有頓寫評儀定之迨夜

（德治元年丙午）

十六、天助和尚忌

十七、本覺和尚忌（預於斯日廿日） 寶珠菴

廿五日、一山國師〈大雲庵、有表米〉  
廿六日、最勝園寺

〔十一月〕

冬節、秉拂、隔宿、土地堂念誦、大坐湯、  
開山并歸雲諷經。小參

十八日、宝鑑圓明禪師、天境和尚〈善住菴〉

廿一日、香林和尚〈真乘院〉  
廿二日、九峰和尚〈定光院〉

廿五日、一山國師〈玉雲〉

廿六日、最勝園寺殿〈宿忌獻粥說戒〉

廿八日、大通禪師〈傳灯〉

晦日、仏頂禪師〈觀史〉

擇吉日四季祈禱・一期三日

〔十一月〕

冬節行礼同結制

四日、永安寺殿

十三日、覺雄禪師

十七日、普賢院殿

十八日、妙覺禪師 同日妙信大師

廿一日、最明寺殿

十八、仏覺禪師忌 回春菴

二十、應供廣濟國師忌〈照牌正統菴〉正統

菴

廿五、一山國師忌 玉雲菴

廿六、最勝園寺殿忌

廿八、大通禪師〈傳□菴〉照中和尚忌

晦日、仏頂禪師忌 觀史菴

〔十一月〕

初四、永安寺殿壁山全公忌

初六、古天和尚忌

初七、雲峰理慶禪門忌〈海□入道〉

初九、道菴和尚忌〈祖堂入牌歲文安丙寅〉

龍華院十三、覺雄禪師忌 傳芳菴

十七、草堂和尚忌 龍淵菴

十八、妙覺禪師忌 同契菴

廿一、晚間最明寺殿宿忌

廿二、最明寺殿忌 可有頓寫

廿三、〈廿二日〉大樹和尚忌

廿六日、普應圓融禪師

廿九日、用章和尚〈禪源院〉  
廿九日、幸阿禪門

〔十二月〕

三日、僧海禪師〈正宗庵〉

四日、仏昭慈明禪師〈下生院〉

六日、定智禪師

七日、宝篋院殿

八日、仏成道〈儀同涅槃〉

十一日、廣智國師

廿六日、太岳和尚

廿七日、浄宗禪門及龜山順傷逆亡等靈

晦日、仏源禪師〈蔵六庵〉

〔十二月〕

□□、大興禪師

同日、宏智禪師〈大仙庵〉

同日、承□和尚〈桂昌庵〉

七日、宝篋院殿

八日、仏成道、行礼同涅槃會

十日、少室和尚〈正眼院〉

十一日、廣智國師忌

廿四、宗覺禪師忌

廿六、中叟和尚忌

廿八、大通禪師〈徳治元年丙午〉傳燈庵

晦日、仏源禪師忌

冬至〈預出念誦巡堂図、同排被位并耆旧鉢

盂図、衆寮諷経、土地堂念誦、大座湯、開山

諷経、小參儀同結夏〉

當日〈祝聖諷経、次赴西来菴諷経、上堂巡

堂喫茶點心〉

齋退〈請秉仏、次茶禮巡堂〉

〔十二月〕

初六、大興禪師忌 正宗菴

初七、寶篋院殿忌

晚間出仏成道列拜之図

初八、仏成道〈禮悉与降誕同〉

大定禪師忌〈觀應二年己卯〉

初十、少室和尚忌

十一、廣智國師忌

十二日、開山忌〈儀同百丈忌〉不具疏次  
赴塔下諷經

十八日、懺法同滿散

晦日、張修正勝、土地堂念誦、大坐湯、  
開山并歸雲諷經 小參  
右具在前  
文明十一己亥六月日 堂司玄賀誌焉  
住山明掄

十五日、出歲末看經榜

晦日、出修正勝・土地堂念誦大座湯罷・  
正統院諷經并小參

十二、陽谷和尚〈十一日〉

十四、雲莫和尚

十五、晚間出結緣經榜

廿五、道文禪門忌〈三宮四郎入道、就于拈華  
堂諷經〉

廿九、晚間揚修正勝〈小盡廿八〉

就于旃檀林點湯并諷經

圓通大應國師忌〈延慶戊申預於十月〉天

源菴

晚間〈土地堂念誦大座湯并赴西來菴諷經、  
昏鐘鳴小參〉

晦日、滿散結緣經〈就于大殿〉